



堀口 達也議員

Q 専門職大学について候補地の市街化編入、公園整備計画等への影響は

A 市街化編入の実現のため県と協議・調整し、公園整備計画等も着実に推進する



その他の質問

- ・こども基本法の目的は
- ・こどもまんなか宣言とは
- ・こどもまんなか応援サポーターの活動は

Q 文化財調査の詳細は。

A 隣接市道で長さ約18mの大溝が確認され候補地にも続く可能性が高い。

Q 開校への影響は。

A 記録保存調査では1 haあたり2～3年の期間が必要で開校への影響もある。

Q 吉田学園の見解、市の考えは。

A 吉田学園は令和9年度の開校を優先した場合、校舎建設は難しいと判断された。本市での開校に向け吉田学園と調整する。

Q 基本合意書の変更は。

A 第2条に「設置場所は、JR稲枝駅西側地区を想定するものとする」と記載があるが、吉田学園との協議では「スタジオやオープンセットでの活用の可能性もある」と回答があり合意書の変更はない。

Q 市街化編入、公園整備計画等への影響は。

A 市街化編入の実現のため県と協議・調整を進める。また公園整備計画等への影響がないよう着実に事業を推進する。



和田 一繁議員

Q 夢京橋あかり館の業態転換の目的とは

A 民間活用による宿泊施設とすることで、本市の財政負担を軽減する



その他の質問

- ・彦根城内の樹木および石垣の整備について
- ・ひこにゃんの活用について

Q 夢京橋あかり館の業態転換の目的とは。

A 設置当初に比べ、社会情勢は大きく変化しており、観光客のニーズも多様化していることから、施設の役割を改めて見直す必要がある。現在の指定管理者制度による運営では、年間約900万円程度の指定管理料が発生し、本市の財政負担が課題となっている。民間活用による宿泊施設とすることで、本市の財政負担を軽減するとともに、観光客が周遊する場所に設置することで、日帰り型観光から宿泊型観光への移行を図る。

Q なぜこのタイミングなのか。

A 令和7年度に国スポおよび障スポの大会が開催されることや、当初令和7年度に彦根城の世界遺産登録を目指していたことから、民間宿泊施設として新たな機能を期待し、地域経済の活性化を目指していきたいと考えた。



▲夢京橋あかり館



黒澤 茂樹議員

Q 5類移行後の新型コロナウイルス感染症の今後の発生傾向は

A 秋には一旦減少するが、冬に向け再度感染が拡大すると予想される



その他の質問

- ・ 異常な暑さ（熱中症等）への、小中学校、病院での対応について
- ・ 防災ラジオの導入に向けての取組について

Q 新型コロナウイルス感染症の病原性はどう変化したか。

A 現在、オミクロン株亜系統のXBB.1.5とされており、従前型オミクロン株より感染力、伝播性がより高くなっている可能性があり、高齢者や基礎疾患を持つ人は感染予防対策を講じて頂くことが重要である。

Q 5月上旬と比べ8月末時点で患者の発生件数は何倍程度か。

A 5類移行前の5月1日の週は、彦根保健所管内では2件、8月21日の週では114件の報告数があり57倍となっている。

Q 感染した際の医療費負担はどうなるのか。

A 5類移行後は、令和5年9月末までの経過措置として、新型コロナウイルス感染症の治療薬および入院費用のみ公費負担となっているが、10月1日からは経過措置がなくなり、健康保険における負担割合に応じた自己負担が発生するが、国では医療支援見直し案が検討されている。

期間	5月8日～6月4日	6月5日～7月2日	7月3日～7月30日	7月31日～8月27日
発生件数	31件	137件	349件	468件
拡大傾向	1倍	4.42倍	11.26倍	15.1倍

▲彦根保健所管内患者発生件数（4週間ごと）



中野 正剛議員

Q 彦根市立図書館でも「ひよこタイム」を設定してはどうか

A おおむね、来年度の4月から試験的に行うことを検討する



その他の質問

- ・ 軟骨伝導イヤホンを彦根市のライフサービス課の窓口に設置しては
- ・ オンライン学習で不登校の子どもへの支援を

Q 幼児に図書館の環境を体験させることは大事ではないか。

A 当館では、乳幼児に対して「ブックスタート事業」を行っており、併せて、ボランティア団体や図書館職員により、定例のおはなし会や季節の行事を開催し、絵本の読み聞かせや工作を行っている。子どもに本の読み聞かせをしたり、一緒に本を選んだり、子どもの傍で、保護者も一緒に読書をする事は、本を読む習慣を身に付けていくうえで、非常に大切なことであると考えている。

Q 彦根市立図書館でも幼児が気兼ねなく図書館に入れる「ひよこタイム」を設定してはどうか。

A 「ひよこタイム」の取組については、近隣市の図書館も最近始めているので、取組事例を参考にして、おおむね、来年度の4月から試験的に行うことを検討する。



▲彦根市立図書館児童書コーナー





辻 真理子議員

Q 湖北保健医療圏の3病院の経営一体化の彦根市への影響は

A できる限り現状の体制維持に努めたいが、動向を注視していきたい



その他の質問

- ・彦根市立病院の医師の働き方改革について

Q 湖北保健医療圏の3病院（長浜赤十字病院・市立長浜病院・市立湖北病院）の経営一体化の影響は。

A 「長浜市病院再編方針の決定に至る経緯」には、長浜赤十字病院が指定管理者になると、市立2病院への長浜市の関与がなくなることや、湖北病院が不採算病院として廃止になること、長浜赤十字病院との交渉により、長浜市の利益が害されるというような長浜市民の不安があるとされている。



▲市立長浜病院・長浜赤十字病院

Q 彦根市の救急医療に影響があるか。

A 医療連携や機能分担の面で、救急医療においても一定の影響を受ける可能性があると考えられる。今後協議が進められるということだが、動向を注視し、適切に対応したい。

Q 小児救急医療への影響は。

A 患者や家族の負担を含め、小児医療の低下を招かないよう、できる限り現状の体制維持に努める。経営一体化の動向や県が進めようとしている保健医療圏のブロック化の動きを、引き続き注視していきたい。



八橋 龍二議員

Q 彦根城やその周辺はバリアフリー化されているか

A バリアフリー化できている施設とできていない施設がある



その他の質問

- ・彦根城の世界遺産登録が延期されたことについて
- ・障害者用駐車場や多目的トイレは確保されているか

Q 彦根城や彦根城周辺はバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化されているか。

A 特別史跡である彦根城跡内において、現存する建造物等の仕様の変更や工事を実施する場合には、現代建築物とは異なり、文化財保護法の厳しい制限があることから、山を登り降りするためのエレベーターやスロープなどの設置といったバリアフリー化を行うことは困難である。一方、開国記念館については現代建築物であることから、エレベーターを設置し誰もが観覧していただける施設になっている。

今後はVR技術を用いた彦根城天守の疑似体験など、麓でも十分楽しんでいただける説明の工夫や、特別史跡の保護に影響のない範囲で新たな多目的トイレの設置も検討する。



▲今後VR技術を用いた疑似体験ができるよう検討される彦根城天守